

平成22年度学院卒業式

学院事務室

去る3月8日(火)、当センター学院講堂において、平成22年度学院卒業式を挙行了しました。式は厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課施設管理室小河室長をはじめとして多数のご来賓や当センターの幹部職員のご参列をいただき、おごそかな雰囲気の中、始まりました。

まず、岩谷総長より卒業生51名に対し卒業証書が授与されました。卒業生達は自分の名前が呼ばれると緊張の面持ちで壇上に上がり、卒業証書を受け取っていました。総長は卒業証書を手渡した後、ひとりひとりの卒業生と握手をされました。思わぬハプニングに卒業生は驚いていたようですが、総長のはなむけの気持ちが伝わった様子でした。卒業生達の表情からは、2年間あるいは3年間の課程を無事に終えたことに対する誇らしさや喜びがうかがえました。

卒業証書授与のあと、中島学院長の式辞がありました。式辞の中で学院長は、中国の古典『書経』にある「正徳利用厚生惟和」を引用され、「厚生労働省の“厚生”は文字どおり“民の生を厚くすること”すなわち“国民生活を豊かにすること”を意味しています。諸君は常に人々の生活を豊かにすることを考えてください。そうすることで諸君の職業人生が豊かになるでしょう。学院はいつでも皆さんを見守っています」と述べられました。

中島学院長の式辞のあと、小河室長が厚生労働大臣の祝辞を代読されました。祝辞では、「当センター学院の卒業生としての誇りと自信を持ち、これまで培ってこられた知識と技能を十分に発揮してください」とはなむけの言葉が述べられました。

その後、岩谷総長から祝辞がありました。総長は祝辞の中で、「志を同じくする先輩として皆さんの

巣立ちを心から歓迎します」と述べられました。そして、「病気や障害は能力格差を生み出す大きな原因となるものです。この格差は致し方ないものだが、支援する仕組みを充実させることにより共に生きる社会を築くことができるでしょう。皆さんは専門職として医療や福祉の世界に閉じこもることなく、患者さん・利用者さんの歩む道筋全体を見通した支援をしてください」と述べられました。

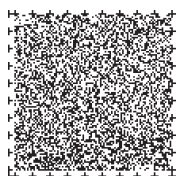
引き続き、来賓紹介及び祝電披露が行われた後、言語聴覚学科1年の鈴木香菜美さんが、卒業生を送る言葉として「リハビリテーションの各専門分野で活躍していく力を身につけられた先輩達を目標にして、一層勉学に励んでいきたいと思います。卒業生の皆さんが全国各地で活躍されることを願っております。」と述べました。

これを受けて、視覚障害学科2年の木下 亮さんが卒業生を代表し、別れの言葉を述べました(次頁に全文掲載)。

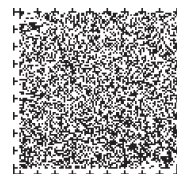
最後に言語聴覚学科1年 及川 縁さんのピアノ伴奏により、全員で蛍の光を斉唱し、閉式のことで式を終えました。卒業生達のあでやかな振袖姿や袴姿のおかげで、おごそかな中にも華やかさが印象に残る卒業式でした。

卒業式に引き続き、卒業生主催による謝恩会が学院6階の大研修室で行われました。謝恩会では、リハビリテーション体育学科の学生による華麗な踊りや勇壮な太鼓のアトラクションが披露されるなどして、一同和気あいあいの楽しいひとときを共有することができました。

卒業生皆様方がそれぞれの進路において、今後、益々ご活躍されますよう祈念します。



別れのことば



冬の寒さもゆるみ、花の便りが聞かれる季節を迎えました。今日、私たち卒業生51名は新たな希望を胸に学院を卒業いたします。

晴れてこの日を迎えることができましたのも、岩谷総長をはじめ、中島学院長、各学科の諸先生方、外部・内部の講師の先生方、当センターの職員の皆様、ならびに私たちが出会った数多くの方々の温かいご指導とご支援、ご配慮のお陰です。そして、本日はこのような盛大な卒業式を挙げていただき、ありがとうございます。卒業生一同、深く感謝しております。

満開の桜のもと、希望に胸を膨らませ、この会場で入学式を迎えた日が昨日のことに思い出されます。それは全国各地から集まった、同じ志を持つ仲間たちと初めて出会った時でした。

学院の授業では数多くの専門的な理論や技術を学び、実習では様々な貴重な体験をさせていただきました。時には目の前の課題に追われて余裕がなくなり、入学当初に描いていた夢や希望を忘れかけてしまいそうになったこともありました。しかし、そのような時は、仲間同士励まし合い、先生方に温かいご指導をいただいて、乗り越えることができました。

また、球技大会や体育祭、交流会で他学科の学生と話す機会がありました。学んでいる専門分野は異なりますが、皆、同じように目標に向かって頑張っていることを知り、より一層心強く感じました。このような恵まれた環境の中で2年もしくは3年間学ぶことができ、本当にありがたく思っております。

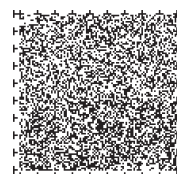
明日から私たちは、それぞれの新しい道を歩み始めます。まだまだ信じられませんが、あと1カ月もしないうちに実際の現場へと足を踏み出します。新しい生活への期待と希望に胸を膨らませている一方で、不安な気持ちもあります。壁にぶつかることもたくさんあるかと思います。しかし、そんなときは、この学院で学んだことを活かし、学院の卒業生であることを誇りに、ひとつひとつ乗り越えていきたいと思います。常に初心を忘れず、謙虚な気持ちで日々取り組んでいきたいと思いますので、今後とも諸先生方や多くの皆様の、変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

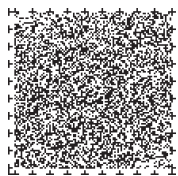
在校生の皆さん、短い間でしたが、一緒に学生生活を送ることができ、とても楽しかったです。この先、大変なこともたくさんあるかと思います。その時は、支えて下さる先生方や、同じ目標を持った仲間がいるということを忘れずに頑張ってください。いつの日か同じ現場で働く同志として、会える日を楽しみにしています。

最後に、学院の益々のご発展と、本日ご臨席賜りました皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げ、別れの言葉とさせていただきます。

平成23年3月8日

卒業生代表視覚障害学科 木下 亮





[学院情報]

国リハ開催－平成23年度障害者福祉 関係職員研修会のお知らせ

国立障害者リハビリテーションセンター学院

国立障害者リハビリテーションセンター学院では、別表のとおり、平成23年度において、障害者福祉関係職員を対象とした研修会が実施されます。多数の方々の参加をお待ちしています。

研修会実施風景（一部研修会のご紹介）



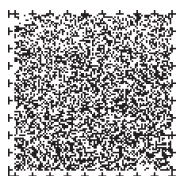
学院 養成・研修棟の外観

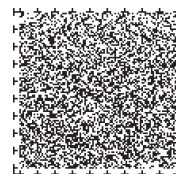


視覚障害生活支援研修会 盲ろう者通訳ガイド
ヘルパー指導者研修会



視覚障害者用補装具適合判定医師研修会

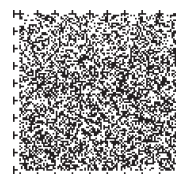


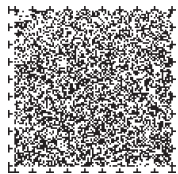


別 表

〔開催順〕

NO.	研 修 会 名	定員 (名)	研 修 期 間	日数
1	視覚障害生活支援研修会	20	5月25日（水）～ 5月27日（金）	3
2	盲ろう者通訳ガイドヘルパー指導者研修会 （前期－後期）	20	6月 6日（月）～ 6月10日（金） 11月14日（月）～11月18日（金）	10
3	相談支援従事者指導者養成研修会	207	6月22日（水）～ 6月24日（金）	3
4	高次脳機能障害支援事業関係職員研修会	200	7月 6日（水）～ 7月 8日（金）	3
5	補聴器適合判定医師研修会 （前期－後期）	76	7月20日（水）～ 7月22日（金） 9月28日（水）～ 9月30日（金）	6
6	視覚障害者用補装具適合判定医師研修会（第1回）	20	8月 3日（水）～ 8月 5日（金）	3
7	義肢装具等適合判定医師研修会（第69回） （前期－後期）	100	8月10日（水）～ 8月12日（金） 12月 7日（水）～12月 9日（金）	6
8	義肢装具士研修会	10	8月24日（水）～ 8月26日（金）	3
9	手話通訳士専門研修会	20	8月29日（月）～ 9月 2日（金）	5
10	リハビリテーション心理職研修会	20	9月 7日（水）～ 9月 9日（金）	3
11	サービス管理責任者指導者養成研修会	292	9月14日（水）～ 9月16日（金）	3
12	作業療法士研修会	20	10月 5日（水）～10月 7日（金）	3
13	音声言語機能等判定医師研修会	30	10月19日（水）～10月21日（金）	3
14	身体障害者更生相談所身体障害者福祉司等実務 研修会	60	10月26日（水）～10月28日（金）	3
15	理学療法士研修会	20	11月 9日（水）～11月11日（金）	3
16	更生相談所長等研修会	50	11月17日（木）～11月18日（金）	2
17	言語聴覚士研修会	30	11月30日（水）～12月 2日（金）	3
18	福祉機器専門職員研修会	60	1月31日（火）～ 2月 3日（金）	4
19	視覚障害者用補装具適合判定医師研修会（第2回）	20	2月 8日（水）～ 2月10日（金）	3
20	介助犬・聴導犬訓練者研修会	20	2月13日（月）～ 2月17日（金）	5





平成22年度 リハビリテーション実施状況（2月報告）

1 自立支援局利用者状況

(1) 昼間実施サービス状況（1日平均）

（単位：人）

課 程		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
自立訓練 （機能訓練）	H.22	25.1	23.8	26.1	25.3	24.4	24.9	27.3	29.5	32.7	33.6	29.8		27.4
	H.21	14.9	17.2	20.9	25.0	24.2	27.4	27.0	26.5	28.0	28.0	26.2	30.9	24.7
自立訓練 （生活訓練）	H.22	10.8	10.8	10.8	10.9	11.0	10.7	11.9	10.0	10.8	11.5	12.0		11.0
	H.21	9.6	9.9	9.1	7.8	6.3	9.8	9.8	9.8	9.4	9.7	10.0	11.0	9.3
就労移行支援	H.22	65.5	77.4	62.5	64.9	69.4	65.7	54.8	53.1	59.9	50.1	50.9		61.4
	H.21	55.3	62.7	56.5	59.8	66.9	70.3	76.8	59.0	66.8	56.8	61.0	42.6	61.0
就労移行支援 （養成施設）	H.22	87.8	95.0	95.0	94.0	93.0	92.7	92.0	89.9	88.0	88.0	87.0		91.2
	H.21	72.7	77.7	76.8	75.5	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	59.6	73.8
合 計	H.22	189.2	207.0	194.4	195.1	199.0	194.0	186.0	182.5	191.4	183.2	179.7		191.0
	H.21	152.5	143.6	171.0	176.0	172.3	165.1	188.6	154.1	162.2	153.4	155.8	151.0	168.8

(2) 施設入所支援サービス状況（1日平均）

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
施設入所支援	H.22	202.6 (66.4)	215.1 (67.9)	203.8 (68.3)	202.3 (67.2)	209.0 (68.9)	202.6 (68.5)	199.4 (70.6)	187.6 (61.4)	191.3 (54.2)	183.5 (52.9)	180.4 (51.7)		198.1 (63.7)
	H.21	185.3 (69.0)	193.7 (65.5)	187.3 (64.2)	189.6 (62.5)	187.8 (58.4)	198.9 (59.9)	200.6 (59.7)	189.7 (66.8)	194.5 (64.9)	193.0 (72.4)	192.0 (68.2)	184.3 (60.4)	191.4 (64.2)

※（ ）は、職業リハビリテーションセンターを利用し、かつ施設入所支援サービスのみを利用している者の内数である。

(3) 独自事業（1日平均）

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
自動車訓練	H.22	115(48)	166(101)	161(89)	145(83)	120(47)	129(53)	137(72)	147(88)	116(56)	142(65)	140(76)		138(70)
再理療教育	H.22	0.0	0.9	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.9		0.9
臨床研修コース	H.22	1.3	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.7	2.0	2.0	2.0	2.0		2.5

※（ ）は、自動車訓練のみ利用している者の数である。

(4) 利用者数計（1日平均）

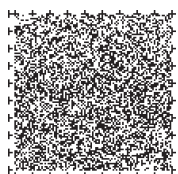
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
支援サービス	H.22	255.6	274.9	262.7	262.3	268.0	262.4	256.5	243.9	245.6	236.1	231.5		254.7
独自事業	H.22	6.0	13.9	12.9	12.3	8.7	9.3	10.8	11.8	8.6	9.5	10.5		10.4
利用者数総計	H.22	261.7	288.9	275.5	274.7	276.6	271.6	267.3	255.7	254.3	245.6	242.0		265.0

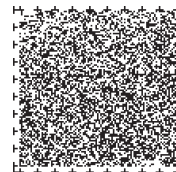
※1「支援サービス」は、「昼間実施サービス」の利用者及び「職業リハビリテーションセンターを利用し、かつ施設入所支援サービスのみを利用している者」の合計数である。

※2「独自事業」は、自動車訓練のみの利用者及び再理療教育、臨床研修コース利用者の合計数である。

2 病院入院患者の状況（1日平均）

区 分		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
総 数	H.22	115.6	117.1	109.9	95.7	91.8	87.0	85.7	82.3	94.5	68.8	71.4		90.2
	H.21	121.0	107.4	102.5	102.2	107.7	105.3	95.6	88.3	81.6	89.5	100.0	108.3	100.8
一 般	H.22	114.5	116.7	109.0	94.8	90.9	86.4	85.0	82.3	93.9	67.9	71.0		89.5
	H.21	119.4	104.8	100.5	102.1	107.0	105.3	94.7	88.3	81.6	89.4	98.7	108.3	100.0
利 用 者	H.22	1.1	0.5	0.8	0.9	0.9	0.6	0.7	0.0	0.6	0.8	0.4		0.6
	H.21	1.6	2.6	2.0	0.0	0.7	0.1	0.8	0.0	0.0	0.1	1.3	0.0	0.8





3 病院外来患者の状況（1日平均）

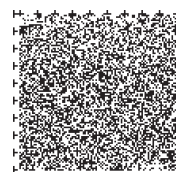
区 分		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
総 数	H.22	142.3	154.1	146.3	151.1	140.8	148.4	144.3	158.4	148.5	199.2	147.5		152.9
	H.21	154.9	162.1	151.0	152.6	147.9	151.5	146.6	145.2	151.5	143.6	135.3	135.7	148.2
一 般	H.22	129.7	142.1	132.5	136.8	128.8	135.7	131.1	145.6	135.5	185.3	134.6		139.8
	H.21	143.0	147.6	138.8	139.7	136.1	137.5	134.0	132.4	139.0	123.2	117.5	113.8	133.6
利 用 者	H.22	12.6	12.0	13.7	14.4	12.0	12.6	13.2	12.8	13.0	13.9	12.8		13.1
	H.21	11.8	14.3	12.2	12.9	11.7	14.0	12.6	12.7	12.5	20.3	17.7	21.9	14.6

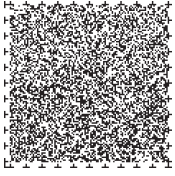
4 見学者の状況（実人員）

区 分		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
医 療	国内	84	206	277	76	433	388	158	120	0	114	163		183.5
	海外	32	54	43	1	0	45	2	15	5	4	0		18.3
教 育	国内	12	96	2	105	37	13	64	143	34	0	10		46.9
	海外	0	0	22	1	26	0	1	5	1	18	0		6.7
福 祉	国内	106	68	88	112	53	125	104	40	54	30	78		78.0
	海外	5	18	33	13	0	19	0	18	38	0	0		13.1
職 業	国内	17	0	14	9	2	15	1	0	0	0	16		6.7
	海外	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0		0.1
そ の 他	国内	50	42	59	14	21	122	26	21	92	64	58		51.7
	海外	2	2	35	0	1	5	4	3	5	1	0		5.3
うち障害者 (再 掲)	国内	9	21	13	34	4	6	36	11	2	1	8		13.2
	海外	0	1	20	0	0	0	0	5	7	1	0		3.1
平成22年度計	国内	269	412	440	316	546	663	353	324	180	208	325		366.9
	海外	39	74	134	15	27	69	7	41	49	23	0		43.5
	計	308	486	574	331	573	732	360	365	229	231	325		410.4
平成21年度合計		332	448	599	387	476	631	355	436	208	371	405	314	413.5

5 学院生の在籍状況（月末現在）

学 科	学 年	人 数
言 語 聴 覚 学 科	1 年	31
	2 年	28
	小 計	59
義 肢 装 具 学 科	1 年	9
	2 年	10
	3 年	8
	小 計	27
視 覚 障 害 学 科	1 年	10
	2 年	4
	小 計	14
手 話 通 訳 学 科	1 年	14
	2 年	10
	小 計	24
リハビリテーション体育学科	1 年	2
	2 年	2
	小 計	4
合 計		128





センターのロゴ

センターのロゴは、国際障害者年を記念し、入所者・職員から募集した作品の中から選定されたものです。

このロゴは、

- 1 リハビリテーションセンターを包む、リハビリに対する強い意欲・意思・たゆまざる努力、そして友情と信頼、
- 2 リハビリテーションセンターを出発点として、未来にまた広く社会各方面に向かって伸びようとする入所者・職員の姿、
- 3 手話の指、点字を読む指、職業、職能、理療に励む力強い5本の手指

をイメージ化したものです。

また、NRCDはNATIONAL REHABILITATION CENTER FOR PERSONS WITH DISABILITIESの頭文字です。

制作者 住田律夫（昭和56年制定）

上のシンボルマークは、WHO（世界保健機関）のマークです。

WHO（World Health Organization）とは、国連の仕事のうち、保健衛生の分野を受け持つ専門機関であり、その目的は、全人類の健康を守るために、世界の国々が力を合わせて努力しようとするものです。

国立障害者リハビリテーションセンターは、WHO指定研究協力センターの指定を受け、国際協力を行っています。

「国リハニュース」編集事務局

国立障害者リハビリテーションセンター管理部企画課

〒359-8555 埼玉県所沢市並木4-1

TEL 04-2995-3100 FAX 04-2995-3661

ホームページアドレス <http://www.rehab.go.jp/>

（国リハニュースはホームページに掲載されています）

※本誌へのご意見、ご要望等がございましたら、上記編集事務局宛

FAX又は、Eメール（kikakuka@rehab.go.jp）をお寄せ下さい。

